

「御国が来ますように！！」

～種蒔きの責任～

マルコ4:20～21 Iコリント3:6～10

■ 言責 宥和→「言責」

昨年教会のテーマは「宥和」でした。そして今年「言責」です。今年自ら決めたテーマをただ実行するだけでなく、美しく建て上げていきたいものです。

『4:26 またイエスは言われた。「神の国はこのようなものです。人が地に種を蒔くと、4:27 夜昼、寝たり起きたりしているうちに種は芽を出して育ちますが、どのようにしてそうなるのか、その人は知りません。』(マル4:26,27) 神の国はどこにあるのでしょうか？それは私たちの只中にあります。イエスキリストは私たちの暗闇のような心に希望の光としてお生まれになったのです。そしてこの箇所から、受け取れるべきことは、私たちの只中にどのような「ことば」があるかによって、私たちの人生が決まるのだという事が語られています。

あなたはこの新年にどのような言葉を発したでしょうか？その言葉が「種」なのか？素直になるのか？そうではないのか？私たちはどちらかを選ばなければなりません。

この当時、種を蒔くことは痛みでもありました。食べ物が乏しかった時代、次の年に種まきをするために、収穫したものを取り分けておくことは容易ではありませんでした。しかし、収穫を信じて種を蒔くのです。

種とはことばです。ことばには責任があります。その言葉で人々は影響を受けるからです。あなたが発した言葉で人の人生が変わってしまうことがあります。責任をもってことばを発しましょう。

■ 発したことばが秩序になります

『4:28 地はひとりでの実にをならせ、初めに苗、次に穂、次に多くの実が穂にできます。4:29 実が熟すと、すぐに鎌を入れます。収穫の時が来たからです。』(マルコ4:28～29)

どんなところを見て、どんな言葉を発し、どこでそれを行うのか？それをしっかり見極めていきたいのです。

良い言葉でも悪い言葉でも、成長し、その実はどちらにしても刈り取らなければなりません！すべてが種まきと刈り取りの問題です。その結果与えられる実を私達は選ぶことができません。

■ 目線

あるご年配の男性がいました。彼は毎日ふさぎ込んでいました。そんな彼を、一人の女性はいつもそっと見つめていました。ある時、その女性は、その男性が昔、ピアノを演奏しており、ピアノがとても大好きだったことを知ります。ピアノは彼にとって母親との楽しい思い出でもありました。耳が聞こえづ

らい彼はピアノが演奏できなくなったことで、ふさぎ込むようになっていたのです。

彼女は、その男性に、サプライズを計画しました。仲間を呼び、補聴器と思い出の楽譜とピアノのコンサートを用意しました。彼は再び演奏できるようになり、生きる希望を取り戻し、ふさぎ込むことをやめました。

さいごに

ある人の目線は、ある出来事を通して諦め、ふさぎ込む人生でした。しかし、ある人の目線は、そうではありませんでした。違う角度からその人を見て、寄り添い、結果、一人の人生を変えました。「ことばの種」とは、そのようなものです。私たちの目線は、どのような目線になっているでしょうか。すべき事があるのなら、それを行う。と決断しましょう。してはいけない事があるのなら、しないと決断するのは、男性の皆さんは自分の語ることばが、どう影響するのか？自分のことばに対して責任を持って語ることが大切です。女性の皆さんは、ことばの種が蒔かれた時、大地のように育み支えることが出来ます。

私たちは自らの言葉に責任を持ち、神様から任された御言葉の種を大切に蒔いていく責任があるのです。

「言責」この一年、自分の言葉に責任を持って歩めますように。そして、私たちが「生かすことば」を語り、神様が必要とされる場所に愛を持って、ことばの種を蒔くことができますように。

(Iコリ)

『3:6 私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。

3:7 ですから、大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させてくださる神です。

3:8 植える者と水を注ぐ者は一つとなって働き、それぞれ自分の労苦に応じて自分の報酬を受けるのです。

3:9 私たちは神のために働く同労者であり、あなたがたは神の畑、神の建物です。

3:10 私は、自分に与えられた神の恵みによって、賢い建築家のように土台を据えました。ほかの人がその上に家を建てるのです。しかし、どのように建てるかは、それぞれが注意しなければなりません。』

(要約者:牧唯恵)

(2023年1月1日)